

## 平成28年度 共同生活援助「みらいホーム」事業計画

### 1、はじめに

現在みらいホーム4ユニットの内、3ユニットは365日の支援を行っており、入居者22名中4名が365日ホームで生活をしている。また、その他家族の生活状況の変化に伴い各ユニットで週末利用が増えている。生活の基盤が徐々にホームに移行していくことを見据え、個々の生活状況の把握、また、入居者と将来の生活イメージの共有を図り生活環境の変化にスムーズに移行できるようその基盤作りを行っていく。

ユニットを増設したことにより運営資金面が安定したものの、今後も増加する支援量を補うほどの運営費には至らない状況である。引き続き運営費の試算状況を把握しながら国の給付費および東京都の補助金の動向を注視していく必要がある。

また、数年前より相談のある女性用のグループホームについて予算措置や開設時期等について小平市と意見交換を行いながら具体的な計画の作成を行っていく。

### 2、入居者定員及び入居状況

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	5名	5名（内男性2名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）

### 3、職員

管理者	1名	
サービス管理責任者	1名	（兼務：常勤換算1.0）
世話人	13名	（常勤換算9.2）
生活支援員	13名	（常勤換算5.7）

- 4、基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援。
  - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
  - 安心と希望のもてる生活。

### 5、入居者の支援

#### 1) 基本方針

- ・安定した日常生活の保障
- ・入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ・入居者の相談支援
- ・安心できる将来への支援

#### 2) 支援内容

- ・食 事 入居者の健康に配慮した家庭的な食事を提供する。

- ・健康管理 体調変化等を丁寧に観察し健康状態を把握する。
- ・入浴 毎日入浴し清潔が維持できるよう支援する。
- ・居室の掃除 希望に応じ、居室の掃除等を行う。
- ・金銭管理 預り金規程に従い、家族等と連携のうえ預り金の管理を行う。
- ・コーディネーターとしての機能

日中活動先（就労、通所事業所、実習先など）における環境の変化や通勤経路の変更などで生じる付添同行、通院の付添、災害時における支援体制など、必要に応じて直接支援または、関係機関への相談、紹介等を行い、入居者が安心して生活を送れるよう支援する。

- ・福祉サービス利用の行政手続き等の手伝い

### 3) 個別支援計画、生活マップの作成・充実

個別支援計画に、各利用者の生活状況を図式化した生活マップを作成し、現在の状況の整理と将来安心して生活するための課題や必要な資源の発見を行っていく。

## 6、重点課題

### 1) 職員間また、関係機関や家族等との連携を強化し、入居者の生活の安定と質の向上を行う。

- ・事業所会議や関係機関との担当者会議、個別面談等を実施するとともに日常におけるコミュニケーションを強化する。

### 2) 入居者と情報を共有しながら、クローバー移転計画を実現する。

- ・入居者に移転にかかる情報を開示するとともに、入居者の希望を聴取し計画を進める。

### 3) 入居者の個々のニーズをもとに一人ひとりの365日支援体制について検討を進める。

- ・本人、家族と共に将来の生活イメージを共有する
- ・家族機能の引き継ぎ
  - ①契約や福祉サービス利用の行政手続きなど代理機能（現在家族が行っているもの）などの引き継ぎ―後見制度の利用検討
  - ②衣類等の買い替え、通院付添、本人の嗜好品の買い物など生活全般に引き継ぎ

### 4) 運営費の安定確保に関して国、都の動向を注視していく。

## 7、バックアップ支援

### 1) バックアップ施設

ワークセンター夢の樹、夢の樹みどり

- ・巡回・・・月1回以上バックアップ施設担当職員が巡回し、入居者や世話人との交流を図る。また、必要に応じて助言等を受ける。
- ・行事参加の呼びかけ・・・バックアップ施設の行事に参加し入居者の余暇活動の幅を広げる。

## 2) 緊急時の支援

グループホームまたは入居者から通報のあった場合ホーム近くに居住する職員が対応する。必要に応じてバックアップ施設夢の樹みどりおよびワークセンター夢の樹の援助を受ける。

## 8、会議等

### ・事業所職員会議（月1回）

各ユニットで実施する。管理者、サービス管理責任者、世話人、生活支援員により日常の支援等について検討および意見交換を行い、支援方法の統一を図る。また、理事会、合同職員会議の報告を行う。

## 9、関係機関との連携

### 1) 家族との連携

家族への連絡内容等を整理し、連携体制を充実させる。

### 2) 関係事業所等との連携

- ・GH・CHネットワーク小平の会に参加し他の事業所と情報交換をする。  
運営面や制度に関する課題等の整理を行い、グループホーム全体にかかる事柄を検討する場としていく。
- ・日中活動先、職場、就労生活支援センターほっと、自立生活支援センターひびき等との連絡を密にし、生活に関する事項について連携を図る。

## 10、防災計画

管理者の指揮のもとに、非常災害訓練を年2回実施する。

総指揮 管理者

連絡担当 世話人

救助担当 世話人

## 11、資金計画

通常の運営経費は、運営費でまかなう。